

平成29年度 伊万里市立大坪小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
親・子ども・教師の好循環！	① 支持的風土の学年・学級経営の促進
	② 組織での指導体制の強化
	③ 教職員の資質向上(授業力・学級経営力・服务意识・組織力等)の促進
	④ 保護者・地域との連携(情報発信と相互の活用)
	⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善(年間指導計画の見直し)
	⑥ 学校予算の効率的活用(学校事務共同実施及び施設設備の充実・改善)

【達成度】

- A: ほぼ達成できた
- B: 概ね達成できた
- C: やや不十分である
- D: 不十分である



3 目標・評価							
① 支持的風土の学年・学級経営の促進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実 ○心の教育3点セットの活用	・体験活動を生かした心に響く実践を行う。	・「いのちの教育指導資料」や「伊万里っ子しぐさ」、「童謡歌集」を生かした授業を全校級で実践し、ボランティア活動や心を育む「家読」を充実させる。	B	・「伊万里っ子しぐさ」と「いのちの教育資料」を新しく配付し、授業実践を呼びかけた。「童謡歌集」からも週1回給食時間に放送で流した。 ・特別な教科化へ向けての情報提供や、次年度の年間計画の作成を行うことができた。	・「ふれあい道徳」における地域への各学級の公開授業を更に充実させ、今後も一層心の教育に取り組んでいく必要がある。
		人権・同和教育の充実	・授業内容の充実を図り、人権感覚の育成を図る。	・日常生活の問題等から、教材を開発・工夫し、授業実践を行う。	B	・学年別の人権教室や全校での平和集会等を開いて、児童の人権感覚をよりよく育てる取組を行った。	・集会活動や道徳、学級指導などで仲間づくりの土台となる人権感覚は少しずつ育っている。人権集会後のクラスの取組を紹介していきたい。
		教育相談の充実	・保護者面談の他、医師、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師、民生委員等関係機関との連携に努める。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的な活用など、教育相談機能の充実を図る。	B	・月に一度のSCとの面談計画・実施・教師コンサルテーションを勤務時間内に行いたい、SCの勤務時間が9:00から17:44であるので難しい。 ・今後は関係機関や病院と定期的につながる時間もほしい。	・不登校や問題行動の状況に応じたカウンセラーの効果的な活用のために組織的な取組を継続していく。 ・直接話す時間が無ければ、教育相談担当が窓口となり、必要な情報を行き来させる。
活教育	●○いじめの問題への対応	いじめをなくす風土づくり	・アンケートの実施や日常の観察等から、いじめの早期発見に努め、いじめ防止、不登校傾向、問題を抱える子への組織的な支援の充実を図る。	・毎月「心のアンケート」を実施し、早期発見に努める。 ・保護者、担任、生徒指導主任、教育相談担当、級外などの連携を密にし、組織としての支援を充実させる。 ・学校いじめ対策委員会において、支援の具体的な方法について話し合う。	B	・毎月「心のアンケート」を実施し、児童の状況を把握することができたので、素早く対応することができた。 ・教員や保護者、地域の方々との連携を密にすることができ組織として支援を充実できた。 ・11月には、「いじめについての伝達講習会」を実施でき、いじめの認定についてより具体的に考えることができた。	・今後も「心のアンケート」の実施を継続し、いじめの早期発見に努める。気になる事案については、これまで同様、担任だけでなくチームで対応していくとともに、児童の様子や課題などを適宜保護者に知らせていく。また、いじめの未然防止のため、学級の支持的風土の醸成に努める。
活教育	特別支援教育	特別支援教育の推進	・児童の実態に即した具体的な支援の内容・在り方を探る。	・ケース会議で児童の実態を把握し、対応について協議・共通理解をする。 ・学校全体の支援体制を整備する。 ・校内支援委員会の定例開催により、児童の現状を確認し、支援を実践する。	B	・管理職、教育相談、特別支援を含めた関係職員で、全校の気になる児童についての現状と対応について、共通理解を図る場を定期的に設けることができた。	・個別の指導計画やケース会議、支援体制のあり方を見直し、更なる充実を図る。 ・今後も支援委員会を定期で行い、児童の現状や対応の通理解を図る。
② 組織での指導体制の強化							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運営学校	学校経営方針	学校教育目標、本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知し、認知度を90%以上に上げる。	・多様な機会(職員会議、集会、保護者会、学校便り、学級便り等)を利用し、周知する。 ・HPや学校携帯サイトの掲示板の更新を定期的に行う。	A	・「親・子ども・教師の好循環！」という学校教育目標が、学校便りや学級通信、保護者への資料等、様々なところに記載され、かなりの認知を得た。 ・HPや学校携帯サイトを活用し、保護者や地域の方に大坪小の教育活動を広く知らせることができた。	・あらゆる機会を利用して、学校教育目標の周知徹底を図るよう今後も努力を続ける。 ・ホームページの更新はもちろん、今年度から使用する「安心メール」の効果的な活用を考え、本校の教育活動を広く知らせる。
運営学校	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導	・通学路の点検や休日前の生活指導の充実を図る。	・毎月20日の安全点検と、学期ごとに通学路の安全点検を実施する。 ・通学路については、保護者や地域の方にも危険箇所の確認をお願いし、危険箇所マップの改訂を行う。	B	・学校設備の安全点検は確実に実施することができた。 ・学校職員による担当地区の通学路の安全点検を行った。また、育友会の地区分会長に危険箇所の確認をお願いし、実際に見に行くなどして徹底できた。	・今後も通学路の点検等を計画的に実施し、随時危険マップの改訂を行うことで児童や保護者の危機意識を高めていきたい。
		○食物アレルギー等への対応	・食物アレルギー対応が必要な児童の情報を職員全員が共有し、学校全体で組織的に対応する。	・食物アレルギーのある児童の一覧表を作成し、確実な把握とそれぞれの対応や薬の所在の共通理解を図る。 ・担任が不在でも適切に対応できるように、必ずアレルギーの情報を補欠者が確認する。	B	・年度当初に、配慮が必要な児童について確認をしたり、緊急時の対応について確認を行った。 ・担任には、配慮が必要な献立について知らせた。また、教務主任が提案する週案にも載せた。	・今後も配慮を要する児童の増加が見込まれるので、危機感を持って対応する。アレルギーの詳細について、さらに共通理解を深める。 ・食物アレルギーをもつ児童には、管理票を100%提出してもらう。
③ 教職員の資質向上(授業力・学級経営力・服务意识・組織力等)の促進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
活教育	教職員の資質の向上	授業実践の向上	・校内研修を中心に、指導技術と授業づくりの力量を高める。	・アクティブラーニングや問題解決学習(西部型授業)の実践など授業改善に努める。 ・全員参加の授業公開と協議を活性化させ、校内研究を核とした職員集団づくりを行う。	B	・年5回の授業研究会を行い、互いの授業を参観することで算数科の授業作りについて学び合った。 ・問題解決学習の流れの中で、ペアや全体での話し合い活動の効果的な方法について、更に研究を深めていきたい。	・研究主任を中心に、課題を明確にししながら授業改善に努める。 ・県の研究指定の関係で公開授業を行うので、より多くの先生方から助言をいただき、授業力の向上に努める。 ・引き続き、学級経営力の向上にも努めたい。
活教育	●学力の向上	○授業と家庭学習とのつながり	・毎日の家庭学習時間を確保させる。 ・「家勉」を推進する。 ・「ながら勉強をしていない」とする児童の回答率を80%以上に上げる。	・家庭学習調査の集計の結果を個別指導に生かす。 ・「家勉」を奨励し、自主学習の習慣を定着させる。	B	・家庭学習の手引きを年度当初に配付したり、家勉コーナーを設置して良いモデルを示したりしながら、「家勉」を推進できた。 ・家庭学習調査を個別指導に十分に生かすことができなかったため、調査の内容の見直しや分析を計画的に行っていく必要がある。	・今後も「家勉」を進めるための取組を行う。校内研にも、引き続き家庭学習充実を図る部を設定する。 ・家庭学習調査を行い、その結果をしっかり分析して、それを基に個別指導を行う。また家庭にも協力を仰いでいく。
		基礎学力の向上	・国語・算数の基礎的な学力を向上させる。 ・学習指導要領や教材に関する研究を積極的に進め、活用力向上と言語活動の充実を目指した授業を展開する。	・「学習のきまり」を活用し、学習習慣の確立を目指す。 ・大坪チャレンジ、思考力テスト、ICT利活用を通して、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。 ・研修会等で活用力や言語活動に関する指導方法の検討を行い、授業実践に生かす。	B	・月1回学習のきまりチェックの日を設けたが、今後も学習習慣の定着に努めていくことが大切である。 ・大坪チャレンジのドリル学習・活用問題・思考力テストの解説を行うことで学力調査にも良い結果が見られた。 ・漢字検定も日々の指導と練習の積み重ねにより合格率も93.7%から97.7%にまで伸びた。	・大坪チャレンジの継続と学習習慣の確立を、より強固なものとして基礎学力向上に引き続き努力する。 ・思考力や表現力の育成をめざし、思考力テストやデジタル教科書等のICTを効果的に活用していく。

④ 保護者・地域との連携(情報発信と相互の活用)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運学 学校	開かれた学校づくり	学校情報の公開	・学校便り、HP、学校携帯サイトの掲示板等による学校情報の公開と内容の充実を図る。 ・各種行事等への保護者の参加率を昨年度より高める。	・毎月、定期的に学校便りを発行し、定期的にHPや学校携帯サイトを更新する。 ・行事等に関する案内状を早期に配付し、保護者の予定が立てやすいように配慮する。 ・「はなまる連絡帳」への保護者登録率95%をめざす。	B	・学校便りの発行やHP・学校携帯サイトの更新ができた。学校携帯サイトは、常に多くのアクセスがあり、保護者への情報提供が行えた。 ・案内状は1ヶ月前には出すよう心がけた。 ・保護者の登録率は94%に届かなかった。	・ホームページを定期的に更新できるように担当をしっかりとつける。 ・来年度は「安心メール」に移行するので、これを機に保護者の登録者を増やし、登録率を100%に近づけ、緊急連絡などが確実に届くようにしたい。
活教 育	○特色ある学校づくり	ふるさと学習の地域定着	・校区内や周辺に存在する社会教育施設や優れた教育資源を活用し、児童のふるさと学習の機会拡大を図る。	・図書館を使った調べる学習コンクールへ積極的に参加する。 ・地域の偉人から学び、行動する「森永エンゼルクラブ」の活動を充実させる。 ・地域への関心を高める、魅力ある事業を企画する。	A	・市民図書館を積極的に利用し、調べる学習コンクールにも参加できた。 ・森永エンゼルクラブの学習は、地域を愛するふるさと学習として大変有意義であった。また、地域の方の協力で、郷土の歴史や祭り、特産物などについて学ぶことができた。	・これらの学習を通し、子どもたちに地域を知り、地域を愛する心が芽生えている。森永エンゼルクラブの学習は、継続して取り組んでいくことで成果が得られるので、本校の特色ある取組としても続けていきたい。
		地域や保護者とともにある学校の創造	・関係機関の指導や協力のもと、自助・共助の精神で教育環境の充実に努める。	・育友会を中心に、保護者・職員・児童の意見を反映させた図書館のリニューアルに取り組む。	A	・育友会の本会役員を中心に図書館リニューアルに取り組み、1学期にお披露目会を行った。職員も作業に加わり、協働して取り組んだ。	・教育環境の整備で、今年度多くの保護者と協働作業ができ素晴らしい成果を上げた。今後も新たな企画を考え、実践する。
		鼓笛隊・校歌等の取組の充実	・誇りを持って鼓笛隊の練習に参加する児童を育成する。 ・校歌に愛着を持ち大切にするとともに、童謡に親しむ学校をめざす。	・「心一つにして」を合い言葉に練習に取り組ませる。 ・明るく伸びやかに校歌を歌うことができるようにする。 ・童謡・唱歌を歌わせ、曲に親しませる。	B	・体育大会や対外行事参加を目標に練習を行った。児童も伝統の大切さを感じながら、愛校心を持ち、心一つにして練習に取り組んだ。 ・校歌は鼓笛隊の演奏曲目の一つとして定着しており、機会をとらえて歌うことを心がけた。	・鼓笛隊は、本校の伝統であり、児童も引き継ぐことで高学年としての自覚が生まれる。今後もこの伝統を継承したい。童謡、唱歌を朝や給食中に流すことで曲に親しませたい。
課特 題定	家庭教育力の向上	読書活動の充実(家読)	・育友会と連携して、家読の推進に努める。	・保護者・育友会と連携して、家読を推進するための新規事業を企画・実施する。 ・育友会の「生活パワーアップ週間」などの取組を通して、生活・学習習慣の改善を図る。	A	・家読に特化した取組を行うために、教養厚生委員会を中心に、「うちどくウィーク」に取り組んだ。回を追うことに保護者の意識が高まり、2月は75.2%の家庭が取り組んだ。	・読書活動に対する取組をさらに充実させるために、育友会と学校が連携して取り組んでいく。 ・市民図書館と更に協力・連携し、読書活動を充実させたい。

⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善(年間指導計画の見直し)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
活教 育	●健康・体づくり	○食育の充実	・バランスよく栄養をとることを心がけて食べる児童を育成する。	・栄養教諭と連携し、朝ごはんの重要性や望ましいおやつづくりの指導をする。 ・給食や学級活動等を通して、偏食と食事マナーの改善を図る。	B	・年間計画や全体計画をもとに、給食委員会を中心になって取り組んだ。3年生は栄養教諭と一緒に食育の学習を行った。	・今後も学級活動や給食時間などで、食と健康について考える時間を設ける必要がある。 ・早寝早起き朝ごはんの習慣をしっかりと身につけさせる手だてを取る。
活教 育	●健康・体づくり	体力の保持・増進 衛生習慣の定着化	・体力向上のための計画的な場づくりを工夫する。 ・手洗い、うがい、歯磨きの徹底化を図る。	・水泳、マラソン、縄跳び週間等の期間を設定して、積極的に取り組ませる。 ・給食前の手洗いやうがい、給食後の歯磨きを毎日実践させる。	B	・マラソンタイムやなわとび週間の設定で授業や休み時間などの取組が増えた。 ・給食前の手洗いや歯磨きは毎日しっかり実践できた。	・スポーツチャレンジの取組を体力向上のひとつの手立てとして取り入れていく。日常的に運動できるよう指導や環境を工夫する。 ・衛生面の指導については、習慣化のための指導の工夫が必要である。
活教 育	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○ICT利活用教育の推進	・パソコンや電子黒板等の機器を活用した授業力の向上に努める。 ・ICT機器を活用した授業を計画的に実施する。	・講師を招いて、ICT利活用授業について研修を行う。 ・電子黒板で活用する教材の充実を図り、日常的に活用できるようにする。	C	・講師を招いての研修が行えなかった。 ・校内研等を通して電子黒板の利活用スキルは向上してきたが、周辺機器の不足解消が今後の課題である。	・講師を招いた研究を必ず行う。 ・タッチペンやマウスなどの周辺機器の不足などがあり、満足に使えない教室があったので、教育環境を充実させたい。
		○情報モラルの指導	・情報社会でのルールやマナーの遵守を図る。	・情報の発信や情報のやりとりをする場合のルールやマナーについて、発達段階に応じて指導を行う。 ・情報モラルについての講演会を行う。	C	・4年生では、授業参観で情報モラルの授業を行い、親子で考える機会になった。 ・情報モラルの講演会を行えなかったため、来年度は計画する。	・各学級での指導だけでなく、講師を招いて児童・保護者を対象とした研修会を実施し、情報社会でのルールやマナーの徹底を図る。低学年から段階的な指導に取り組む。
活教 育	外国語活動	外国語活動の推進	・高学年の外国語活動における授業展開や教材教具を工夫し、児童が生き生きと活動する授業づくりに努める。 ・ALTとの効果的な連携による授業づくりに努める。	・年間カリキュラムを作成し、ワークシートや視聴覚機器を生かした授業を実践する。 ・ALTとのTT授業展開を工夫する。	B	・授業展開は主にHiFriends!に沿って行った。教材教具は、教科化に向けて、教材等の共有化が必要。 ・ALTとの連携については、授業前後の短い時間で簡単な打ち合わせ程度しかできなかったため、時間の確保を考えていきたい。	・教材教具は、各学級の児童の実態に応じて各々が作成したが、教科化に向けて、教材等の共有を考えていく。 ・ALTと基本的な役割分担を行い、担任主導で授業計画を立てていく。

⑥ 学校予算の効率的活用(学校事務共同実施及び施設整備の充実・改善)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運学 学校	学校予算の活用	学校事務共同実施	・学校業務を改善し、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう工夫する。	・学校文書処理の標準化・効率化を行う。 ・学校徴収金事務について、校内調整を図りながら業者への支払い等が円滑に行われるよう工夫する。	A	・服務帳簿の点検、及び、学校徴収金について、事務職員を中心として業務を進めることで、集中管理による効率化、担任の負担軽減等を行うことができた。	・今後も服務帳簿点検や学校徴収金の業務を進め、担任の負担軽減や集中管理による効率化をめざす。
		施設・設備の充実・改善	・児童が安全・安心で快適に過ごせる環境を整えるために、予算を含めた計画を進める。	・トイレ改修等について、工事の内容や必要な備品等についての協議を行い、予算を効率的に活用し、快適な環境を整える。	A	・トイレ改修を通じ、児童が快適に過ごすことができる環境を整えることが出来た。工事中、業者との協議を密に行い、事故等が起きなかった。	・育友会や市とも連携し、児童が安心して生活できる環境を整えるために、点検をしっかりと行い、優先順位を考えながら予算を執行する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校 運営	○幼・保・小・中連	幼保小連携の推進	・幼保小の交流を行い、相互理解に努める。	・夏季休業中に職員の保育体験を実施する。 ・年2回以上の情報交換会を実施する。	B	・保小研修会を実施し、園の基本方針や保育の現状について話を聞くことができた。 ・特別支援コーディネーターを中心に園に出向き、入学後に配慮が必要な園児についての情報交換を行うことができた。	・保育体験は行わなかったが、園の先生に来ていただいて意見交流したことは有意義だった。今後も行き来しながら連携を深めていく。 ・今後も園に出向き、情報収集と児童のよりよい対応に努める。
		小中連携の推進	・小中の情報交換会や授業交流を行い、相互理解に努める。	・情報交換会を年3回以上、交流授業を年1回以上実施する。	B	・小中連携会議で、成果や課題について協議し、小中合同での指導目標を明確にした取り組みができた。また、教育相談担当者で年2回情報交換を実施した。 ・中学校の英語教諭による交流授業を行い、中学校での英語学習に対する興味・関心を高めることができた。	・小中連携会議だけでなく、日常的に連絡を取り合い、児童生徒への対応などについての情報交換をさらに深めていきたい。 ・交流授業を2学期に行い、伊万里中学校との関係や交わりをもう少し早い段階でもちたい。

●は県の必須項目、◎は県の特定課題、○は市の共通評価項目

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすこれまでの取組が、さらに一步深まった1年であった。4月や12月の全国学力・学習状況調査や佐賀県学習状況調査において、佐賀県平均を上回るなどの成果を収め、伊万里市漢字検定では、過去に例を見ない97.7%の合格率を得ることができた。今後は、児童の興味関心を高めるような課題設定や、より自然に行える複数人での話し合い等、さらに指導方法改善に努めたい。また、不登校や問題行動については、教育相談や特別支援教育担当者が中心となり、外部組織とも連携して、情報共有と組織的な対応を行うことができた。今後も組織としての力を強め、共通認識のもと問題解決に努力していく。また、ふるさと学習や体験型学習を行う上で、市民図書館や地域の方々に助けをいただきながら充実した取組を行うことができた。今後は「大坪小人材バンク」を活用したり拡大したりしながら、子ども達に、地域を知り、地域を愛する心を育てる機会をつくっていきたいと思う。